

1. ウイングを広げる対象

- ①スイングクォーター 5%が動けば逆転する 500万人、250万人 浮動層
- ②政治への参加は「＝護憲派支持」ではないが…
- ③「ウイングを広げる」対象はどこか？
⇒革新、護憲勢力の外の世界＝保守リベラル（立憲自身が「保守リベラル」を自認している）
無党派層（政党支持なし層）
- ④若者へのアプローチ
⇒若者の政治動向の分析
 - ・目の前にある経済的条件、暮らしの安定志向が消極的な安倍支持に
 - ・社会が変われば、政治が変わればという“ワクワク感”の不在⇒どう創るか？
 - ・魅力ある未来構図、より平等な所得分配政策案
 - ・オルタナティブな選択や構想が見えない⇒オルタナティブの提示

2. ウイングを広げるための課題

- ①政党や政治家不信を払しょくするためには？
⇒政権担当能力
既成政党体質からの脱皮（既成政党体質とは何か？）
- ②社会運動から政治参加へのアプローチ
社会運動は社会運動で止まっている？
社会運動の個別目的を政策として、政治的に実現していくためのアプローチが政治参加
欧米や途上国では当たり前の思考が途切れる、この国の現実⇒どう脱皮するか？
- ③地域自治から政治参加へのアプローチ（身近な課題解決から政治参加へ）
参加型の地域づくりの考えは、すでに政府（霞が関）が先取り、国策、トレンドイ
⇒地域自治、政治参加に結びついていくのかどうか（取り込まれに終わらないかどうか？）
⇒市民自治からの視点を活かす
 - i 社会的弱者、マイノリティ、高齢者や障がい者の視点。
最後の一人（たった一人の声も見逃さない）、組織擁護から個人を大事にする社会
 - ii 住民自治の視点
まちはみんなのもの、公共を自ら担う、創り出す視点

3. 国政選挙に特化した政治参加市民運動である「みなせん」運動の展望

- ①市民活動、NPO、NGOを活かす。公益を市民が担う社会。ボランティア社会から政治参加
⇒社会に関わる圧倒的多数の市民は市民活動やNPO、NGO、ボランティア活動に関わる
- ②一人ひとりの暮らしの生の現場から踏み出す⇒世界の潮流